

新宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成30年度実績

令和元年7月

福岡県新宮町

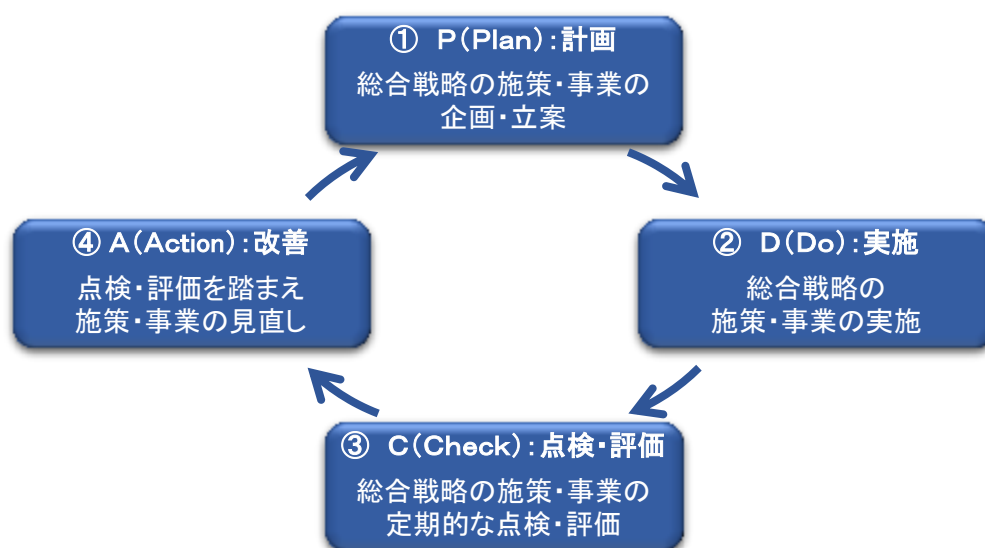
はじめに

1. 総合戦略の位置づけ

新宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「新宮町総合戦略」という）は、新宮町人口ビジョンにおいて提示する将来展望を踏まえ、まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）第 10 条の規定により、新宮町における「しごとの創生」、「ひとの創生」、「まちの創生」に一体的に取り組むため、平成 27（2015）年度を初年度とする今後 5 か年（令和元（2019）年度まで）の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたものです。

2. 施策検証について

国の総合戦略における政策 4 分野ごとに設定した数値目標や国の各政策分野の具体的な施策ごとに客観的な重要業績評価指標（目標値）を基に、実施した施策・事業の効果を外部有識者などの参画により検証し、必要に応じて新宮町総合戦略の改訂を行うことにより、PDCA サイクルを確立し、適切な進行管理を行うこととしています。



※PDCA サイクルとは、Plan(計画)、Do(実施)、Check(点検・評価)、Action(改善)のプロセスを実施し、最後の改善(A)では評価(C)の結果から、最初の計画(P)の内容を継続・修正・破棄のいずれかにして、次回の計画(P)に結びつける。このらせん状のプロセスを繰り返すことにより、品質の維持・向上および継続的な業務改善活動を推進するマネジメント手法のことである。

基本目標ごとの施策検証

<基本目標1>仕事をつくり経済を活性化する

(方向性)

本町の総合戦略では、立地条件や労働力などの強みを活かし、課題を克服することにより、新たな企業誘致を推進していくとともに、既存の企業や商店のPRや育成にも取り組んでいきます。また、農林漁業については、豊かな自然資源を活かしながら新宮町ならではの支援を行うことで、地域産業の育成を図っていきます。

地域産業の育成・活性化により、町内に雇用を創出し、町外からの新たな人の流れを生み出すことで、「しごと」と「ひと」の好循環を創り、持続可能な「まち」の活性化を図っていきます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
町内事業所数	1,190	1,231	—	—	1,250	—

※総務省「経済センサス」より

平成29、30年度は「経済センサス」未実施のためデータなし

施策－1 企業誘致による雇用促進

本町の交通利便性など好立地の環境を活かした製造業、流通業務施設、商業施設などの誘致や立地を積極的に推進するとともに、誘致や立地に必要な環境づくりに努めます。

① 平成30年度取り組みの概要

- ・福岡県企業立地課と連携して企業の進出可能な場所などの情報の収集を行いました。
- ・ミツカン跡地は平成29年度に用途地域を「工業地域」から「近隣商業地域」に変更したことで、民間開発によりマンション及び商業施設等が建設されることになりました。
- ・大型車両等の通行に伴う歩行者事故防止のため、継続して実施している北尾1号線の歩道設置を進めました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
従業員50人以上の企業誘致数	—	4件	4件	4件	6件	66.7%
9m以上の町道の整備延長	—	397.5m	411.5m	461.5m	1,160m	39.8%

施策－２ 農業振興による活性化

本町の特性を活かした農業環境を充実させ、農業の活性化に取り組むため、付加価値の高い特産品などの開発や頑張る農業者の育成・支援に努めます。また、荒廃農地などの利用促進を図るため、未利用農地の活用とともに、新たな担い手などの育成に努めます。さらに、これからの学校給食の実態を踏まえ、地元食材の活用などの検討に努めます。

① 平成 30 年度取り組みの概要

- ・ 農業振興につながる事業としては認定農業者へ経営支援などの研修会を 4 回行ったほか新宮小学校 3 年生にイチゴの定植体験を行いました。
- ・ ひとまるの里利用組合に対して、J A 粕屋の協力により消費者からの要望や意見を集約し提供しました。
- ・ 平成 31 年度から町立中学校で給食が開始するにあたり、J A 粕屋に対して地元食材の提供の要請をしました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
認定農業者の人数	26 人	25 人	25 人	21 人	30 人	△125.0%
集約した農地面積	—	—	—	—	10ha	—
ひとまるの里の売上高	285,000 千円	289,284 千円	269,840 千円	253,087 千円	300,000 千円	△212.8%

施策－３ 水産業の振興による活性化

漁業経営の安定化を目指しつつ、漁業者のやる気や新しい漁業へのチャレンジを促進するため、漁協や漁業従事者との検討協議を進めながら、新たな漁業や直販などを検討し進めるとともに、漁業の担い手の育成・支援にも努めていきます。また、養殖事業を促進します。

① 平成 30 年度取り組みの概要

- ・ 漁協内にいけま売り専門の部会を立ち上げ、いけま売りの実施体制の強化を図りました。
- ・ 飲食店やバイヤー向けに販売用アプリを開発し、事業者へ魚種カレンダーや水揚げ情報を提供する準備を整えました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
直販事業の回数	2 回/年	5 回/年	5 回/年	5 回/年	5 回/年	100.0%

施策－４ 商工業の振興による活性化

本町の好立地を活かした企業の誘致や消費拡大を図るとともに、商工会との連携を図りながら、既存商店の魅力づくりや新規店舗との共存・共栄できる関係づくり、企業 PR や新規起業への支援などを検討し進めていきます。また、町内製品の PR や特産品開発を進めていきます。

① 平成 30 年度取り組みの概要

- ・ 町内事業所と連携して、「みかん塩」「明太子ラスク」の商品開発を行いました。
- ・ 町内での消費活動を促進するため、プレミアム商品券に対する補助金交付事業を引き続き実施しました。
- ・ 創業に対する支援として、新宮町、篠栗町、粕屋町、久山町の 4 町で共同主催し、各町商工会が実施団体となり創業塾を開催しました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
ブランド開発の数	—	—	6 つ	8 つ	5 つ	160.0%
創業（起業）者数	—	1 件	1 件	1 件	5 件	20.0%

＜基本目標2＞地域への新しいひとの流れをつくる

(方向性)

地域ごとに異なる課題に対応するため、それぞれの特性を踏まえた計画づくりを進めて、人口減少地域への定住化を図るとともに、転入者である若い世帯との交流など様々な交流の場づくりを含め、新しい人の流れを生み継続させる仕組みや環境づくりを検討し進めていきます。

数値目標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注2}
東部地域・相島の人口	985人	947人	984人	988人	985人	100.3%

※「住基人口(毎年3.31)」より

施策－1 定住化の推進と空き家など有効利用の推進

本町では、JR 新宮中央駅周辺の住宅開発が進み、若い世代を中心に急激な人口増加が続いている一方、東部地域や相島のように人口が減少している地区もあります。このため、各地域の特性を活かしつつ、若い世代が住むことに魅力を感じる環境づくりを検討するとともに、特に人口減少のみられる地域においては、移住や定住につながるための仕組みを検討し推進していきます。また、空き家も増えてきているため、空き家や古民家の有効利用について取り組んでいきます。

① 平成30年度取り組みの概要

- ・ 相島活性化協議会において町内不動産業者との連携により、相島空き家バンクを創設しました。併せて、相島出身者に対し、島内空き家の利用意向調査などを行いました。
- ・ 相島での生活がわかるよう、島の生活情報や地域行事を整理したルールブックを作成しました。
- ・ 立花口地区の古民家を取得し、地域住民や九州産業大学と連携して利用方法を検討しました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
立花口・的野地区の新規定住世帯数	—	17世帯	82世帯	128世帯	40世帯	320.0%
相島の新規定住世帯数	—	4世帯	6世帯	9世帯	5世帯	180.0%
空き家バンクへの登録件数	—	—	—	—	10件	—

古民家の利用件数	—	—	—	—	2件	—
歩道・通学路の整備延長	—	2,715m	3,352m	3,568m	1,547m	230.6%

施策－２ 交流の拠点づくりの推進

人口が減少している地域においては、観光や地域の特産品を活用するなど、地域内外の人々との交流機会を増やしていくことが重要と考えます。そのため、地域住民との協働により、交流施設の整備をはじめ地域資源の確保や人材の活用などを検討し進めていきます。

① 平成30年度取り組みの概要

- ・ 相島の地域資源活用として、相島産野菜類を購買店で販売するスペースを確保しました。
- ・ おもてなし協会を通じて、的野サンライズフェスティバルや立花山竹灯籠まつりなど住民主体の活動を支援しました。
- ・ 九州オルレのコースとして、「福岡・新宮コース」が認定を受けました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
交流拠点となる施設の整備数	—	1件	1件	1件	8件	12.5%

施策－３ 観光の拠点

商工会、農協、漁協などの関係団体とおもてなし協会が連携し、新たに開発された特産品や地元産品の販売などを通して観光PRを進めます。また、新宮町おもてなし協会が中心となり、町内の自然、文化、産業などの資源や地域で活躍する人材を活用した観光イベントなどの実施を支援していきます。さらに、周辺市町と観光情報の発信やイベントを共催し、地元企業や町内活動団体との連携による体験型のイベントを支援します。

① 平成30年度取り組みの概要

- ・ 観光イベントは、地域振興及び観光振興事業としておもてなし協会が地域事業者と連携して実施し、参加者が増加しました。
- ・ 新宮町、古賀市、福津市、宗像市及び福岡県と共同で情報発信やイベントを行っている「宗像糟屋北部地域広域連携プロジェクト推進会議（通称：しこふむ）」で「歩く王決定戦」の実施や福岡都市圏で広域連携として行っている福岡都市圏広域行政推進協議会で「五ヶ山フェスティバル」などを実施しました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
広域連携による イベント数	3	5	5	4	5	50.0%
観光イベント（新 宮劇場）の参加者 数	213 人	676 人	854 人	997 人	1,000 人	99.6%
観光(名所・旧跡) ガイドの人数	5 人	5 人	5 人	5 人	10 人	0.0%
観光施設の設置 数	—	2 件	2 件	2 件	4 件	50.0%

＜基本目標3＞若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

(方向性)

人口の好循環を維持していくためには、町民が、安心して結婚し、子どもを生き育てられる社会環境の醸成に取り組む必要があります。そのため、若い世代の経済的安定を図るとともに、妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援や、子ども・子育て支援の充実を図っていきます。また、女性が働きながら安心して妊娠・出産・子育てができ、男性も積極的に家事や育児を行うことができるよう、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現を図ります。

数値目標	基準値 (H24)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
合計特殊出生率	1.8	1.7	1.7	1.7	1.9	△100.0%

※「母生年月日・子生年月日・出生数」、年齢別人口集計表より

施策－1 妊娠から乳児期の支援の充実

子育てに伴う精神的、経済的な負担から、妊娠を避けたり、一人っ子の家庭が増えています。妊娠から乳児期の親の負担軽減を図るため、安心して出産し、子育てができるよう、妊婦、乳児の健康状態の把握から必要な相談・指導を行うことができる体制を構築していきます。

① 平成30年度取り組みの概要

- ・ 乳児家庭への訪問日程調整の時に、電話相談を実施して早めに情報を得ています。
- ・ 相島の妊婦に対して健康診査時の渡船運賃の助成を実施しました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H25)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
乳児家庭への訪問率	93.4%	97.9%	94.7%	97.2%	98%	82.6%
4か月児健診の受診率	95.9%	100%	98.3%	98.3%	98%	114.3%
マタニティスクール参加者数	78人	99人	140人	107人	100人	131.8%

施策－2 幼児期の子育て支援の充実

共働き世帯やひとり親家庭の増加など、新たな幼児教育・保育ニーズに的確に対応するとともに、就学前の子どもたちの健やかな成長と良好な子育て環境を充実していきます。

① 平成 30 年度取り組みの概要

- ・ 保育所の延長保育・一時保育は全施設で実施でき、障がい児保育も対象児童入所施設で実施しています。
- ・ 待機児童数は申込数の減少により減っています。
- ・ 病児保育は古賀市と共同で 1 施設設置するよう協議を進めました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H25)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
待機児童数	45 人	15 人	36 人	24 人	0 人	46.7%
かんがる一広場の利用者数	6,445 人	8,550 人	13,910 人	8,521 人	8,000 人	133.5%
ファミリーサポートの会員数	—	225 人	259 人	260 人	300 人	86.7%
地域子育てサロン実施箇所数	7 か所	10 か所	7 か所	7 か所	12 か所	0.0%

施策－3 義務教育期間の子育て支援の充実

教育・学童保育に関する保護者のニーズを的確に把握しながら、教育・学童保育環境を向上させていくとともに、子育てに関する情報共有や悩みを解決するため、地域での子育てを支援します。

① 平成 30 年度取り組みの概要

- ・ 新宮北小学校に学童保育所を 1 クラブ増設し、待機児童解消を図りました。
- ・ 中学生のジュニアリーダーが地域寺子屋のボランティアとして参加し、地域の方との絆づくりを進めることができました。
- ・ 地域寺子屋事業について行政区長会や社会教育関係団体に向けた研修会を実施し、啓発に努めました。
- ・ 平成 31 年度開校の新宮東中学校をコミュニティスクールに指定する準備を行いました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H25)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
学童保育所（放課後児童クラブ）数	6 か所	9 か所	9 か所	10 か所	10 か所	100.0%
通学合宿の実施箇所数	4 か所	7 か所	7 か所	6 か所	7 か所	66.7%

夏休み地域寺子屋事業の実施箇所数	10 か所	15 か所	19 か所	19 か所	15 か所	180.0%
コミュニティ・スクールの数	5 校	5 校	6 校	6 校	6 校	100.0%

施策－４ 男女がともに参画し、支えあう環境づくり

企業や事業所への育児休業や介護休業の取得しやすい職場づくりを目指し、ワーク・ライフ・バランスの促進に向けた啓発活動を進めていきます。

また、女性が仕事と家庭の両立ができるよう、男性への家庭責任の意識向上を図るとともに、積極的な育児参加への取組を促進します。

① 平成 30 年度取り組みの概要

- ・ 男女共同参画関連事業のチラシなどを庁舎に配架するなど情報提供に努めました。
- ・ 新宮町企業内人権・同和問題研修推進会議に参加した事業所に男女共同参画のパンフレットを配布し、啓発に努めました。
- ・ まつり新宮で男女共同に関するパネル展示を行いました。
- ・ 人権フェスティバルで男女共同参画に関する意識調査の結果を報告しました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H25)	実績値 (H28)	現在値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
町広報誌・町ホームページへの掲載回数	—	2 回／年	2 回／年	3 回／年	2 回／年	150.0%
講演会などの実施回数	—	—	—	—	1 回／年	—
パパママ教室の参加者数	84 人	78 人	70 人	101 人	120 人	47.2%

＜基本目標4＞時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

(方向性)

急速な人口増加により、都市構造が大幅に変化している中で、各地域の実情に即した新しいコミュニティづくりを進めていくとともに、人口減少が進む地域においては、地域振興策の推進により、地域の魅力を高めていくことで、町民が将来にわたって安全・安心で豊かな生活を営むことができる町を構築していきます。

数値目標	基準値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
自治会加入 世帯率	85.6%	83.3%	87.7%	82.0%	90%	△81.8%

※自治会調査及び年度末行政区世帯数より

施策－1 地域振興策の推進

地域住民との協働により策定した将来構想や個別の課題に基づき、ルールづくりや具体的な振興策の検討を進め計画的に事業を推進していきます。特に地域住民の理解や協力が不可欠なことから、今後も住民との懇談・協議を継続し地域の合意形成を高めるとともに、大学などとの連携により可能な取り組みから進めていきます。

① 平成30年度取り組みの概要

- ・ 相島振興では、相島活性化協議会を中心に検討会議を実施し、各プロジェクトは実行力の高い組織に再編し、取り組みました。
- ・ 東部地域振興では、立花口の古民家活用について地域住民や九州産業大学が参加し、検討会を実施しました。
- ・ 相島への来島者は、依然観光客が多く、増加しています。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H25)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
東部地域の交流拠点の整備数	—	—	—	—	4件	—
相島振興に係る交流拠点整備数	—	1件	1件	1件	2件	50.0%
相島への来島者数	63,000人	65,000人	77,000人	89,000人	66,000人	866.7%

施策－２ コミュニティの振興

今後のまちづくりを進めるにあたり、新興住宅地区や高齢化の進む地区など地域の特性を踏まえたコミュニティのあり方について検討し取り組んでいきます。

① 平成 30 年度取り組みの概要

- ・ 協働のまちづくり研修やまちづくり活動支援事業説明会、新宮町役場ホームページを通じて、団体の活動をアピールしました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H25)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
地域コミュニティ活動（夏休み地域寺子屋事業、通学合宿など）への支援者数	150 人	614 人	1,192 人	717 人	200 人	1,134%

施策－３ 防災・防犯対策の充実

近年の局地的集中豪雨など大規模な自然災害の発生を踏まえ、災害に強いまちづくりを行うため、地域防災計画や防災マップ（ハザードマップ）を適宜見直し、住民の安全確保や支援に取り組んでいきます。また、定期的な防災訓練や防犯活動などを支援するとともに、防災・防犯に対応する体制づくりや施設の整備・改修を計画的に実施していきます。

① 平成 30 年度取り組みの概要

- ・ ハザードマップに「高潮浸水想定図」など情報を追加し、全戸配布する準備をしました。
- ・ 町内の避難所の位置情報などをオープンデータとしてインターネットに公開しました。
- ・ 防災専門官により自主防災組織の設立の啓発や活動支援を実施しました。
- ・ 年末に町内関係団体で一斉防犯パトロールを実施しました。
- ・ 災害時の避難場所として利用できる「ふれあいの丘公園」の整備を行っています。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
自主防災組織の数	3 団体	6 団体	7 団体	7 団体	10 団体	57.1%
防災訓練の参加者数	200 人	370 人	592 人	65 人	1,000 人	49.0%
災害時備蓄物資の量	75 人分	225 人分	300 人分	375 人分	450 人分	80.0%
自主防犯団体の組織数	4 団体	4 団体	4 団体	3 団体	6 団体	△50.0%

既設防犯灯の LED への更新数	90 基	164 基	370 基	535 基	850 基	58.6%
---------------------	------	-------	-------	-------	-------	-------

施策－４ 自然環境の保全

地域住民、関係団体、行政などの協働による保全活動を積極的に推進していくとともに、自然環境を活用した環境整備を検討し推進します。

① 平成 30 年度取り組みの概要

- ・新宮海岸クリーン作戦は、地域住民や行政のほか、企業や大学などの関係団体などの参加も募り、今年度は海岸に加え、松林内の清掃も実施しました。
- ・松林ボランティア活動は、高校や大学など協力団体の増加により実施回数が 6 回となったことで参加者数も増加しました。
- ・荒廃森林は調査した結果約 20ha あり、対象者に対し福岡県森林環境税事業(荒廃森林の整備)による整備事業の説明会を実施しました。
- ・新たな森林ボランティアの育成に向けて、松林ボランティアへ活動時の指導や役場職員に対して研修会の実施などを行いました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
新宮海岸クリーン 作戦参加者数	900 人	1,200 人	1,200 人	1,200 人	1,300 人	75.0%
松林ボランティア 活動参加者数	100 人	70 人	120 人	833 人	200 人	733.0%
立花山ボランティ ア活動の参加者数	40 人	34 人	18 人	24 人	100 人	△26.7%
森林ボランティア 人数	—	30 人	27 人	28 人	40 人	70.0%

施策－５ コミュニティバスの充実

地域住民のニーズを踏まえながら、路線などの見直しを行うとともに、安定した経営を行うため、乗降客の増加などにつながるような対策を進めていきます。

① 平成 30 年度取り組みの概要

- ・九州産業大学と連携し開発した乗降調査システムで乗降調査を行いました。
- ・バスの現在地を示すバスロケーションシステムの実装に向けたテストを行いました。
- ・中型バスを 1 台追加し、中型バス 2 台、小型バス 5 台体制として多客対応を図りました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 ^{注1}
コミュニティ バス利用者数	19.6 万人	19.6 万人	21.6 万人	23.5 万人	20.0 万人	975.0%

施策－6 渡船の充実

利用者のニーズを踏まえながら、運航時刻などの見直しを行うとともに、安全な運航を最優先に進めていきます。

① 平成 30 年度取り組みの概要

- ・ 渡船運営委員会の意見を基に、夏時刻の期間見直しを運輸局と協議しました。
- ・ 渡船利用客の状況に応じて、臨時運行を行いました。

② 目標値の現状

成果指標	基準値 (H26)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	現在値 (H30)	目標値 (R31)	進捗率 ^{注1}
渡船の利用者数	10.5 万人	12.8 万人	15.3 万人	17.8 万人	11.0 万人	1,460%

注 1：進捗率の計算方法については、令和元(2019)年度の目標値と平成 26(2014)年度の基準値の差からどの程度の増減があったかを示しています。計算式としては次のとおりです。

$$\text{進捗率(\%)} = \frac{(\text{現在値} - \text{基準値})}{(\text{目標値} - \text{基準値})} \times 100$$

注 2：分母が 0 の割合は計算できないため、現在値の目標値に対する割合を進捗率としています。

地方創生推進交付金事業

相島の小さな拠点づくりからはじまる持続可能なまちづくりプロジェクト

【事業期間】

平成30年9月～令和3年3月

【事業費】

平成30年度実績額：7,250千円（うち交付金充当額：3,625千円）

【事業の内容】

平成30年3月に策定した相島活性化プランに基づき、島の最重要課題である人口減少・少子高齢化の克服に向けた取組を進めるため、次の4つの事業を行った。

1) 「組織」づくり

①持続可能な相島の体制構築

平成29年度に立ち上げられた島の関係団体の代表者で構成する「相島活性化協議会」を「漁師を中心とした振興プロジェクト」「特産・名産開発プロジェクト」「購買店リニューアルプロジェクト」「観光振興プロジェクト」「移住促進プロジェクト」の5つのプロジェクトに再編し、各プロジェクト部会で各種事業を検討・実施をした。

2) 「仕事」づくり

①水産業の生産性向上

一本釣りした魚を市場へ出荷するだけでなく、島外の消費者への直販ルートを開拓するため、直売事業である「いけま売り」を月1回の定期開催とし、新たに近郊飲食店向けの事前注文システムを構築した。また、相島産ひじきを活用した特産品の開発を行い、製造・販売体制を検討した。

②環境保全に関するソーシャルビジネス

漂着ごみや廃漁具などの処理が課題となっているため、これらの廃棄物を活用したハンドメイド品を試作し、製造・販売体制を検討した。

3) 「資金」づくり

①活動基金等の立ち上げ

相島の活性化や自然環境の維持に関する活動に必要な資金を集めるため、観光客などの来島者を対象とした「相島応援募金」を立ち上げた。

4) 「人」づくり

①環境整備及び情報発信

相島空き家バンクを立ち上げ、空き家情報を収集し、移住希望者に情報提供するための専用HP「相島.net」を構築した。また、漁村留学の第2期募集を実施した。

【重要業績評価指標(KPI)】

	初期値 (H30.3)	目標値		実績値
新規移住世帯数(世帯)	0世帯	平成30年度増加分(1年目)	0世帯	0世帯
		平成31年度増加分(2年目)	2世帯	—
		令和2年度増加分(3年目)	2世帯	—
「仕事」づくり事業における年間売上高(直売事業+特産品・ご当地メニュー+新たな観光産業+ソーシャルビジネスなど)	9,290,000円	平成30年度増加分(1年目)	300,000円	5,106,000円
		平成31年度増加分(2年目)	300,000円	—
		令和2年度増加分(3年目)	300,000円	—
「仕事」づくり事業における新規雇用者数	0人	平成30年度増加分(1年目)	0人	0人
		平成31年度増加分(2年目)	2人	—
		令和2年度増加分(3年目)	2人	—
「資金」づくり事業における年間収入額	0円	平成30年度増加分(1年目)	100,000円	20,000円
		平成31年度増加分(2年目)	100,000円	—
		令和2年度増加分(3年目)	100,000円	—

【評価および今後の方針(案)】

新規移住者の獲得に向けては、移住促進プロジェクトにおいて空き家所有者に対する意向調査を実施し、相島空き家バンクを創設した。次年度以降は空き家情報を移住希望者に向けてHPで発信し、空き家を活用したお試し居住施設等の検討を行っていく。

いけま売りの定期開催等により直売事業の売上が増加したため、今後は直売事業の更なる拡大に向け、近郊の飲食店への営業活動やその他の販路開拓等について検討していく。また特産品の開発についてはひじきを使った新たな特産品の製造・販売体制の検討をしたが継続は難しいと判断したため、その他観光客向けの土産品として試作した水引商品等の製品化に取り組んでいく。

水産業の振興や新たな産業づくりによる雇用創出に向け、漁業の後継者の募集や育成についての取り組みや、観光客に向けた空き家等を活用した民泊事業や漁船クルージングなどの体験事業の立ち上げを引き続き検討していく。

相島応援募金を立ち上げ、自主財源を確保するための仕組みづくりはできたが、1年目は目標額に及ばなかったため、相島活性化協議会の取り組みを島外者へ広報する方法等を検討していく。